

序章 白書刊行当初と現在の環境の変化

序章では、教育・医療などの身近なテーマを基に、情報通信技術（以下「ICT」という。）の高度化や利活用などの状況について、情報通信白書^{*1}の刊行が始まった1973年当時とICTが社会・経済インフラとして不可欠なものとなっている現在とを比較し、情報通信白書の刊行から50年間でICTを取り巻く状況がどのように変化したかを紹介する。

第1節 ICTの高度化とサービスの多様化

情報通信白書の刊行から50年間でICTは高度化し、様々なICTサービスやビジネスが登場した。1973年当時には、**主なコミュニケーションツールは加入電話**で、外出中の連絡手段として**公衆電話**が重要な役割を果たしており、それらの利用の中心は音声による通話であった（**図表0-1-1-1**）。現在は、固定電話の加入者数や公衆電話の設置台数が大幅に減少し、**携帯電話が主なコミュニケーションツール**となっている。また、**メールやソーシャルメディア（SNS）**も普及し、音声だけではなく文字や写真などが用いられるなどICTを用いた多様なコミュニケーションツール、サービスが普及している。

図表0-1-1-1 【1973年と現在】コミュニケーションツールの変化



映像の視聴手段は、1973年当時は、**アナログ方式の地上放送**をテレビで視聴する形態であった（**図表0-1-1-2**）。現在は、**地上放送**に加えて**衛星放送**、**CATV放送**の視聴が可能であり、映像技術の高度化により**4K・8K**という超高画質の映像を楽しむことができる。また、インターネットでの配信によりテレビ番組をパソコンやモバイル端末で視聴することが可能となっており、さらに、インターネット動画配信サービスなども出てきている。

*1 昭和48年当時は「通信白書」。平成13年から「情報通信白書」となる。

図表0-1-1-2 【1973年と現在】動画視聴手段の変化

